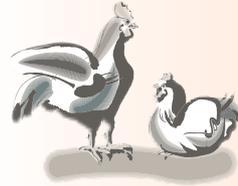




愛知県議会議員
鈴木 正



年頭の ごあいさつ



幸田町長
近藤 徳光

皆さん、あけましておめでとうございます。すがすがしい新春を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

昨年は、まさに「災」いの年であったと言われました。本町は幸いにして被害は少なかったですが、日本列島各地で度重なる台風の影響や10月23日に発生しました新潟県中越地震等により多くの尊い人命が奪われ、また家屋の倒壊、道路の寸断など多くの被害を蒙られた被災地の皆さんに衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、町民の皆様の義援・協力に感謝し、一日も早い復旧を心から願うものであります。

さて本町は昨年、町村合併50年の記念すべき年を迎え、合併当時の人口に比べ今日倍増の34,800人を数え現在も増加を続けており、また優良企業の誘致に努め財政的にも安定した地位にあります。これもひとえに町民の皆様と先人の方々のご尽力のお蔭で、紙面をおかりし心からお礼を申し上げます。このため感謝の意を込め昨年10月には記念式典や講演会等を開催し、またふるさとを見直し今後の発展を念

幸田町の皆さん、あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新春をお迎えのこと心からお喜び申し上げます。

昨年は日本列島全域に及び台風による風水害や、新潟県中越地震など大きな災害が発生し、甚大な被害となりました。

自然災害の恐ろしさを改めて感じると同時に、関係地域に対する早急な復旧支援が求められているところであります。

じ、花いっぱい運動にも取り組んでいくところであります。

今年、愛知県においては、いよいよ中部国際空港・愛知万博がそれぞれ2・3月に開港開幕し、この地方の大きな飛躍発展が期待され、本町も関連する国道23号の整備あるいはカンボジアとのフレンドシップ事業等国際交流を深めながら、町勢発展の足場を築いてまいりたいと考えております。

しかしながら今日、地方財政を取り巻く環境は極めて厳しいものがあります。ご承知のように国と地方の財政政を見直す三位一体の改革が、昨年11月政府においてその大枠が示されましたが、市町村にどのような影響が出るのか不透明な部分も多く大変不安を覚えます。そうしたなか本町として取り組まなければならない事業は山積しており、特に現在建設を急ぐ消防庁舎の早期完成と、ここ2・3年のうちに取り組む必要のある一般廃棄物最終処分場建設、深溝・荻谷小学校、幸田中学校体育館・中央公民館の増築策など主要な事業はもとより環境、福祉、防災など諸般の事業もおそろかにすること

さて、今年、本県において長年の夢でありました「愛・地球博」の開幕と、中部国際空港「が開港となり、21世紀の飛躍のための基盤が完成、この地域の将来に向けての躍進が期待されているところであります。

一方、社会経済の変化と、これに伴う県及び市町村の行財政運営は相変わらず厳しい状況におかれ、少子高齢化の進展をはじめ、価値観の多様化、地域産業の変化など、社会環境が大きく

はできません。そして今後の町政発展の基盤となる相見・幸田駅前・野場地区の区画整理事業、深溝運動場、加えて国道23号関連の周辺道路整備、道の駅など継続懸案の事業を積極的に推進していく必要があります。したがって、今後の行財政運営にあたっては引き続き徹底した経費の節減など行革に鋭意取り組み、また事業の実施にあつては緊急優先度を見極めつつ施行してまいり所存であります。

また、まちづくりの指針であります既定の第4次総合計画が17年度終期を迎え、この計画の改訂も急ぐ必要があり、今日、市町村合併等一層の地方分権が進み自立・自己責任が問われるなか、新総合計画を踏まえ、将来にわたって柔軟に対応できる行財政基盤を築きつつ、夢と活力のある「住んでみてよかったまち 幸田」の実現に一層の努力を傾けてまいり所存であります。今年が災害がなく明るい年でありますように、町民の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

変わる中で新しい時代に的確に対応することが求められております。地方分権と行財政改革を一層推進する中で、行政課題は山積しており、いずれも町の将来に関わるものばかりであります。これらの課題を解決のため皆様のご指導ご支援のもとに一層努力してまいり所存であります。今年が皆様方にとつて希望のもてる明るい年となることと、皆さんのご健勝とご多幸を心から祈念し、新年のごあいさつといたします。